

学校プールについて

1. プール設置のメリット・デメリット比較

	メリット	デメリット
自校 設置型	<ul style="list-style-type: none"> ① 移動時間がかからない。 ② 全校統一的な対応が取りやすい。 ③ ランニングコストを抑えられる(バス運行料や施設使用料は不要)。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 天候により中止になることがある。 ② 教員が水質管理や水位調整を行う必要がある。 ③ 屋外のため、天候により寒い、プールの水が冷たい(現在、シャワーの一部は温水。改築で全シャワーの温水化は可能)。 ④ 屋上プールは漏水リスクが若干ある(技術の進歩と適切な保守でリスクは低減可能。23区では改築の際、大半の学校が屋上プールを整備)。 ⑤ イニシャルコストがかかる。
民間施設 活用型	<ul style="list-style-type: none"> ① 天候に左右されず、計画的に水泳指導を実施できる。 ② 寒さや水の冷たさはない。地球温暖化に伴う紫外線などの影響も抑制できる。 ③ 最小のコストで専門インストラクターの指導を受けることができる。 ④ 教員による施設管理が不要になる。 ⑤ イニシャルコストを縮減できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 移動時間がかかる(バスで移動する場合も、道路幅員の関係で学校や施設の前に駐車できるとは限らない)。 ② 使用時間が限定される(午前9～10時のみ、施設の休業日のみなど)。 ③ 施設側の状況(他団体の使用状況、施設の建替、事業撤退など)により使用できなくなる場合も想定される。 ④ ランニングコストが高い(バス運行料や施設使用料がかかる)。 ⑤ 改築対象外の学校は自校プールを使用することになる。

2. 水泳指導外部化を実施している近隣自治体

東京都…葛飾区、多摩市、日野市、清瀬市

千葉県…佐倉市

埼玉県…北本市、志木市

神奈川県…海老名市

3. 葛飾区事例紹介

【水泳指導外部化の方針について】

令和2年12月に「今後の水泳指導の実施方法に関する方針」を策定し、小学校は改築校や学校プールの大規模改修が必要となった学級及び学校外プール活用の意向のある学校から、学校外プールの活用へと移行していき、できるだけ早期にすべての小学校が屋内温水プールでの水泳指導ができるようにしていく考えを示した。

この方針に基づき令和4年度から、改築校において学校外プールを活用した水泳指導を始めている。今後、活用が見込める学校外プール施設としては、区民プール、民間のスポーツクラブを合わせて10施設程度を活用していく方向で、新しく区立の温水プールの整備についても検討を進めている。

【水泳指導外部化のメリット・デメリット】

(葛飾区「今後の水泳指導の実施方法に関する方針」より)

メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none">・複数の専門のインストラクターを活用した水泳指導ができる。・子どもの技量に応じたグループ分けによる水泳指導の体制ができる。・天候に左右されない計画的な水泳指導ができる。・1年の中で計画的に水泳指導ができる。・外部からの視線の遮断や騒音配慮などの対応が不要となる。・学校プールの水質・水流失防止の管理などが不要となる。・改築校のプール設置場所を有効利用することができる。・学校プールの設置費や維持管理費と比較して経費がかからない。	<ul style="list-style-type: none">・移動時間がかかる。・移動時の安全確保が必要となる。・災害時などの水利の調整が必要となる。・夏季休業中の水泳指導が難しくなる。・施設開放での利用ができなくなる。